

# 「返還を世界平和の象徴に」

中標津町立計根別学園

9年 近藤 夏林

「択捉島へ行ってみませんか？」

一枚のお便りが学校から配布されました。これが私の北方領土への考えを変えてくれたのです。もともと、北方領土には大きな国の問題として興味がありました。

「こんな近くに住んでいるのに、北方領土を知らないなんて恥ずかしい。」

と思い、実際に択捉島に行ってきました。行く前は、「ロシアは不法に日本の領土を占領した。」ということしか知らなかったため、ロシアに対して、怖いという印象を持っていました。ですが、実際に行ってみると、島に住んでいるロシア人は、笑顔で

「友人。」

と、迎えてくれました。私は、ロシア人に対しての印象が「ガラッ」と変わりました。択捉島へ訪問している時、私はふと思いました。

「以前、島に住んでいた日本人と、現在住んでいるロシア人が共有できる場にしてはどうだろうか。」

と。そうすれば、日本人にとってもロシア人にとっても、納得できるかもしれないと思いました。家に帰り、早速その話を家族にしてみると、父が言いました。

「それは違うんじゃない？」

私は驚きました。

「ロシアは、日本が戦争で苦しんでいる時に、日本との中立条約を結んでいるのにも関わらず、攻めてきたんだよ。」

という父からの話を聞き、ハッと気づきました。

「やっぱり、返還を求めるべきだ。」

と思い、日本が返還を求めている理由も、よくわかりました。

では、どうすれば日本に北方領土が返還されるのでしょうか。そもそも私のように、北方領土について正しく理解していない人がたくさんいるのではないだろうかと思い、私なりに考えた結果、三つの案が浮かびました。

一つ目は、学校で必ず北方領土について正しく理解してもらうための授業をすることです。例えば、社会の歴史の授業や道徳の授業などで取り入れられると思います。これは、小学生や中学生などの学生に正しい歴史を知ってもらうために効果的だと考えました。

二つ目は、根室市にある二・ホ・ロを全国に設立することです。北方領土について、楽しく、気軽にふれ合える二・ホ・ロを全国に設立することで、興味を持ってもらえると思いました。

三つ目は、択捉島などの北方領土の印象的な写真をSNSで公開することです。実際に北方領土へ行った人が、ロシア人と交流している様子や、島にある建物などを公開することによって、現在の北方領土の様子を知ることができると思います。

このようにして、正しい歴史や今の現状を知っている仲間を増やしていきたいです。そして、それらの力を集めて、ロシアの大統領に北方領土を返してほしいという日本の思いを伝えたいです。私たちのような若者が直接訴えることによって、「返してほしい！」という思いが伝わるかもしれません。

「ここまでするのか。」と心打たれるかもしれません。また、元島民の方達の高齢化が進み、返還への思いを伝える人が少なくなってきました。ですので、私たち若者がその思いを引き継ぐべきだと思います。そして、もしこの問題が解決できたならば、世界平和の象徴になると思います。

「武力を用いなくても国の問題は解決できるのだ。」

ということの世界に発信できると思います。七十年かかってしまいましたが、話し合いで解決しようとする日本は素晴らしいと思います。そんな国に生まれたことを誇りに思い、これからも北方領土返還運動に関わっていこうと思います。